

# 泉 いずみ

―目次―

表紙「震災10年」

「コラム百折不撓」住職

連載「ハヤブサ物語15」

震災10年特集「オンライン取材」

被災者のみなさんへ

我々が登る丘

連載「共に生きる③」老僧

さとのりの知恵を読む「雪山童子」

掲示板・お知らせなど

付録…コロナ禍のお寺への避難所パンフ

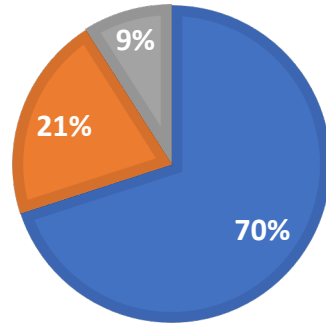


被災直後・復興後の女川町竹浦集落と仙台市海楽寺

十年の 希望の小道 風光る 博子

先日、研修会にてこのようなグラフが紹介されました。皆さんは、何の調査かわかりますでしょうか？

幸せだと思う 70%  
ほとんどがそう思う 21%  
その他



■ 幸せだと思う ■ ほとんどがそう思う ■ その他

この調査は厚労省が実施した「ダウン症の方々が主観的に感じる幸福度調査」だそうです。ダウン症という障害を抱えて生まれてきた方々の90%以上の方が、生まれてきて「私は幸せ」と感じていること。私たちは、毎日を「幸せ」と感じながら生きていくのでしょうか？

採血で分かる新型出生前診断。診断を受け、陽性（染色体異常）と判定された97%の人が人工中絶を選択するということです。

私たちは、命の選別を正当化していませんか？「そんな綺麗な事じゃない」という言葉を「綺麗な事」にして、「命」を私物化していないでしょうか。下のメッセージが心にグサリと刺さります。

ダウン症をもった子どもたち  
お誕生おめでとう！  
家族のみなさんおめでとう！  
私たちは心からそう言います  
病気との闘いがあったり：  
『障害』のことばにおびえたり：  
ゆっくりとした成長が不安だったり：

たしかにいろいろあるかも知れないけれど、子育てってそんなもの。子どもを産むってことは何がおこるかかわからないけど、そんなこんなをとりあえず引き受けようと覚悟することかも知れないな。

でも実はそんな覚悟なんかしなくても、予期せぬ出来事、降ってわいたような事態にも人は、日々を重ねる中で誰もが暮らし合う力をもっているのだとわかってくる。

それまで見えなかった風景。子どもに育てられ、そして癒される喜び『障害児』との暮らし合いが、子育てのバリエーションにすぎないと、たとえ気付かなくても、ほら、あなたも結構やっている。

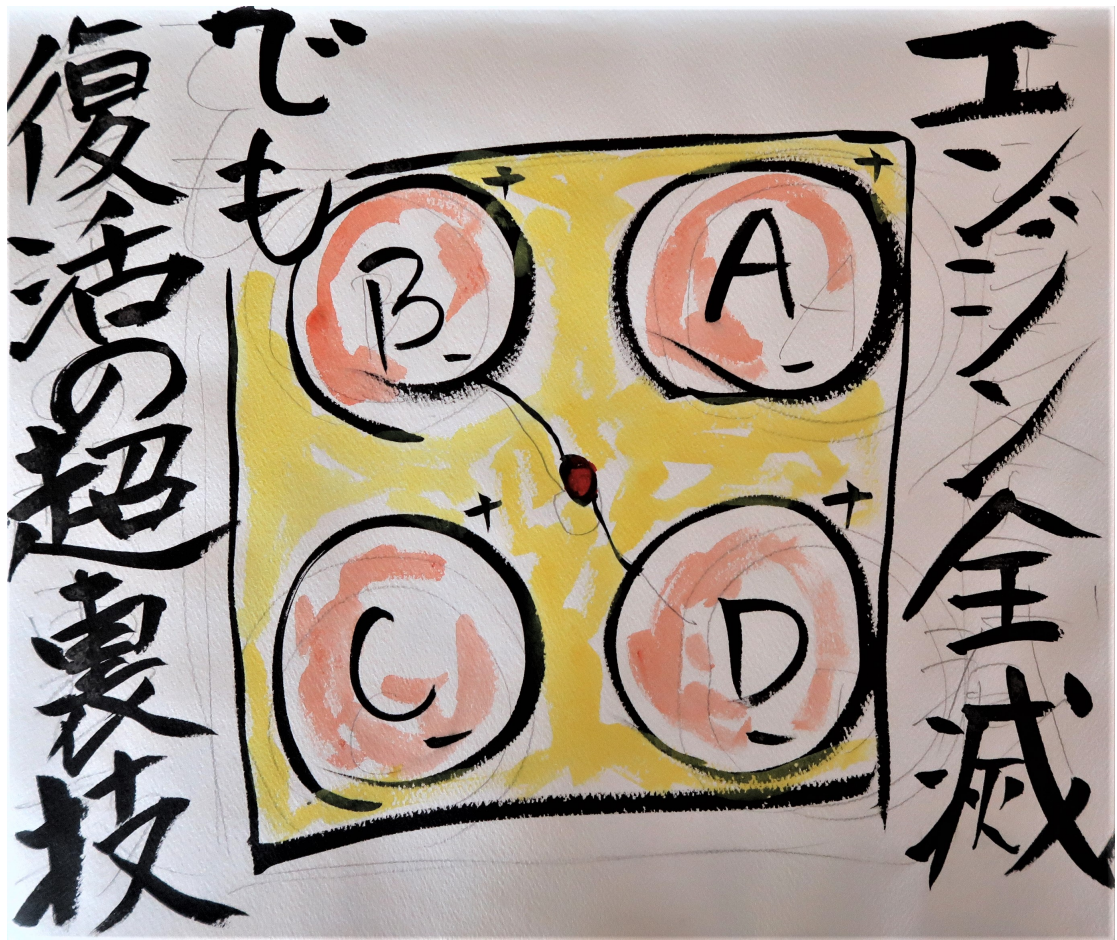
私がかつて母の命に守られて命を授かったように、子どもの命もまた授かりもの。

命の重さは量りようも、比べようもありはしない。生まれようとすると命を診断し操作しようとする「時代」、ダウン症をもった子どもたちが「生まれたくなかった」と言っただか？

命に優劣をつけたがる自分の感性を戒めよう。命の輝きを見つめる心を失った人たちとは手を組むまい。

このいまわしい時代を生き抜くことで、精一杯 ZON と言ってみよう。『障害』をもった子どもたちよ

※DS日本ダウン症協会有志の会より



◆僕を救ってくれたのは国中さんという方だ。彼はイオンエンジンの開発責任者。だからエンジンの事なら何でも対応できた。◆こんなこともあるかも知れないと彼はそれぞれのエンジンを繋ぐ回路を内緒で忍ばせておいた。重量わずか数グラム。この回路はまだ生きているプラス側とマイナス側を繋いで一個のエンジンとして働かせようというものだ。◆ダメもとで試しに回路を繋いだら、な、何とさう事だ！イオンエンジンが復活した！かろうじて僕は地球に還ることができることになった。国中さんはじめ地球のスタッフのみなさん、全力で僕を支えてくれて本当にありがとう！◆僕は最後の力を振り絞った（続く）

◆2月7日、日曜日の午後、新聞記者さんとの約束で、女川町の竹浦の鈴木誠喜さんと交信した。住職（息子）と鈴木洋子さん（誠喜さんの娘さん）のライン電話で相手の画像をテレビに映しながら1時間近くも話し合った。居ながらにして、被災地と繋がることに驚嘆した。◆テーマは以前に紹介した竹浦の建築士、北目富造さんについて。記者さんには安泉寺に送られてきた多くの資料と、現地で研修した材料をできるだけたくさん集めて、事前資料にした。◆2015年に放映された竹浦に関する復興計画を紹介したビデオも見せた。万全の状態で当日に臨んだ。◆誠喜さんはとても元気で私と妻たちがいる居間に映像と共に飛び込んできた。記者の質問に、時々言葉につまり、目頭を押さえるしぐさが見られた。そういう時は、娘さんがとても的確な言葉でフォローしてくれた。◆いずれ新聞記事になるのをそれを読んでいただきたい。内容を簡単に説明する。◆20年前に竹浦に住み着いた北目夫婦は住民に溶け込み、老後の趣味の釣りを満喫していた。震災後も、建築士の北目さんは住民への恩返しにと、仙台の実家に戻ることをやめ、竹浦の復興に尽力した。◆被災者向けの講演で、ある大学教授が中越地震の話をした。山古志の十二平集落が住民と話し合い、そっくり集団移転した話を

鈴木さん達は聞いた。それにヒントを得て、十二平の視察と調査を繰り返して、竹浦高台集団移転構想を練った。◆復興住宅を作るにあたって、北目さんはあらゆる知識を駆使して情報収集を行った。十二平の移転に伴う、住宅を含めた地域の設計、例えば建築費用、インフラの整備、景観の工夫など、多岐にわたって図面を作っていた。◆現在の竹浦は、建物の統一的な景観を保ちつつ、住民の個性を生かした住宅が立ち並ぶ。一軒一軒、北目さんは住民との話し合いを進め、機能的で住み心地よい住宅を設計し、提供した。◆資材も共同で購入し、業者も紹介し、個々で頼むよりずっと安く建築費を抑えた。住宅は外側の景観を白壁、現地特産の屋根瓦、切妻方向の統一などを実現し、周囲の環境とマッチした魅力的な集団個別住宅が整った。◆自分で設計した新居に北目夫婦は約三年住み、穏やかな老後を過ごした。◆復興までは死なないと決意し、病と闘いながらも安堵感に包まれて、北目さんは永遠の眠りについた。感動極まる！



### ◆女川町・鈴木・北目さんへ

表紙にあるように、あれから10年が経とうとしています。初めて竹浦を訪れたのは2012年3月22日。倉庫で片付けをしている鈴木・北目夫妻と出会いました。以来物心両面でささやかな支援をしました。文房具、米、野菜、などこちらが無理をしない範囲で、檀家さんや寺と繋がる多くの人たちの心を寄せて、品物を送りました。その後、被災地を見ようと手を挙げてくれた人たちを現地に運びました。そして、中高生たちにも声をかけ、被災地見学ツアーを催しました。大勢押しかけたにも拘わらず、私たちがいつも暖かく迎え入れて頂き、感謝します。若い子たちは現地で学んだことを自分たちの地域の防災に生かす努力をしています。

### ◆海楽寺のご家族へ、関係者の方々へ

2019年にお伺いした時の大友柾人くんのランドセルのお話が耳に焼き付いています。大友住職が、「これで自分の人生の目指す方向がはっきり決まりました。」と力強くおっしゃったことに深く頷きました。井土浜はこれから復興の正念場です。しかし、井土ネギをブランド化した大友総代を始め、元気な檀家さん達と海楽寺をますます充実させていってください。

### ◆福島の水田さんのご家族へ

名古屋東別院の保養事業で安泉寺にホームステイをした頃が懐かしく思い出されます。

男の子3人が広い安泉寺をまるで自分の家のようにくつろいでくれました。当時の小学生と幼稚園児がもう高校生と中学生・小学生高学年です。いづれ必ず安泉寺を訪ねて下さい。いつでも泊めてあげますよ。そして私たちはみんなの成長を自分たちの孫のように見守っています。

### ◆眞行寺の佐々木住職へ

被災直後のスーパーマンとしての働きに驚嘆しました。「念仏がどっかへ吹っ飛んだ！」と言っていましたね。大丈夫、阿弥陀さんはそんなことで私たちを見放したりはしませんよ！私たちも何だかよく分からないのですが、阿弥陀さんが「福島へ行け！」と言ったような気がしていますよ。

◆そのほか、震災を機に多くの人達と知り合いになりました。今はコロナ禍の時ですが、こういう時こそ、人と人との気持ちの繋がりが大切だと思います。これからも復興を支援します。(震災特集は来月号にも続く)



写真：佐々木氏

※記事を打って間もなく、13日深夜に東北で震度6の地震があった。何と10年前の余震と言われている。幸い皆さんは無事だったので安堵。いよいよ東海沖地震が来るかと警戒している。

◆中日春秋一月二十三日付けのコラムに私は釘付けになった。バイデン大統領就任式の演説で、若干二十才の詩人アマンドが素晴らしい自作の詩を朗読した。抜粋で紹介する、

： 奴隷の子孫にして母子家庭に育った瘦せっぽっちの黒人の女の子が大統領になる夢を持てる……私たちは分断を終わらせる。未来を第一にするためには、まず私たちの違いを脇へ置かねばならないと知っているからだ。……私たちがこの時代に応えようとするのであれば、勝利は刃ではなく、私たちの作ったあらゆる橋にあるのだ。それが、木立ちのなかの空き地、私たちが登る丘の約束だ。……かつて私たちは問うた。「私たちがほしいどうしたら破滅に勝りえようか」いま私たちは断言する。「破滅はいったいどうしたら私たちに勝りえようか」……私たちがありしものにふたたび戻らず、あるべきものに向かって動いていこう。……私たちに残されたよりも良い国をあとに残そう。私の青銅色の、高鳴る胸で息するごとに、この傷ついた世界をすばらしき世界へと高めよう。……そこにいつも光はあるのだ——私たちにそれを見ようとする勇気さえあれば。私たちがそれになろうとする勇気さえあれば。

◆古希を過ぎて恥しい話だが、私の心は震えた。アメリカという国の持つ復元力の深さに脱帽した。今、最も大切なのは、分断ではなくて融合である。憎しみではなくて慈しみだ。◆ラグビーでおなじみの「ノーサイド」。敵も味方もない、お互いが正々堂々と戦いあったことを讃えあう心である。◆振り返ってわが身の情けなさに愕然とする。不平不満のはけ口を家族にぶつけて自ら橋を破壊し、話し合うことをためらって孤立を深める私である。アマンドの前でぐうの音も出ない私のあさましい姿を、彼女の演説はくっきりと浮き彫りにしてくれた。◆チャップリンの映画「独裁者」のラストで話す世紀の六分間の演説、公民権運動で有名なキング牧師の「私には夢がある」と題した演説、ドイツのワイツゼッカー大統領の「荒野の四十年」の演説、などと並び称される名演説がここに登場したことを私は確信する。魂の叫びはいつも私たちの襟を正させ、私たちの心を鼓舞してくれる。



◆大学で学んでいる時、突然母が下宿にやってきて、一晩泊っていった。その夜、親子でじっくり話合った。「お母さんはどうしてこんなに苦労をしたのですか？」彼が尋ねると、母は自分の人生を告白するように言葉を絞り出した。「私はとても社会福祉をやるような器ではないけれど、いつも夫のそばにいてやれるならいいと思っていた。もし、行方不明の夫が帰って来た時、孤児院がなくなっていたらどんなに寂しがるだろう。それだけはどうしても守らなければと思つて頑張つてきた。」母はそう言つて娘のような表情になった。彼は母の話を聞いて嬉しくなった。◆こんなことがあった。「夫のユン・チホは妻が日本人だから親日派だ。彼らを殺せ！」と大勢の民衆が共生園に押しかけて来たことがあった。そのとき、大勢の孤児たちが父と母を囲んで何重もの人間の鎖を作った。「私たちのお父さんとお母さんに手を触れるな！」孤児たちの気迫に押されて、民衆は引き上げていった。「今生きている私の命はあなたたちが守ってくれた。私はあなた方に生涯をささげる。」母の意志の強さはそこにある。◆大学院生活の途中で母が癌に倒れる。私が看病している時、もう臨終が近づいたある日、消え入るような声で母が彼に告げた。「梅干が食べた。」と日本語で言った。7才までしか日本に住んでいない母が日本語で梅干しと言つたのだ。彼はさとした。母にとって食べたもの、美味しいものは日本食、話しやすい言葉は日本語だということを！母は韓国で生活しているから、韓国語を話し韓国の

食事を食べているが、やはり日本の生活が身についているのだと。◆母の死後、彼は共生園を継いだ。ある朝、一人の卒園生が、教会で膝間づいて祈っているところに出くわした。「ユン・ギは共生園で育つたから、誰よりも孤児の気持ちの方が分かります。どうか神様、彼がそこに気がつくようにしてください。」これを聞いた彼は慄然とした。逃げようとしている彼に、開き直つてもうどこへも逃げないという決意をさせた。彼は孤児たちに文化を与えようと、サッカー・水泳・合唱団を組織して生活に楽しみを与えた。特に合唱団は有名になり、社会に知られるようになった。(続く)



昔、ヒマラーヤ山に真実を求める行者がいた。ただ迷いを離れる教えを求めて、そのほかは何も求めるものがなく、地上に満ちた財宝はもとより、神の世界の栄華さえ望むところではなかった。◆神はこの行者の行いに感動し、その心のまことを試そうと鬼の姿となってヒマラーヤ山に現われ、「ものはみなうつり変わり、現われては滅びる。」と歌った。◆行者はこの歌声を聞き、渴いたものが水を得たように、また囚われたものが放たれたように喜んで、これこそまことの理（ことわり）である、まことの教えであると思い、彼はあたりを見まわして、だれがこの尊い詩を歌ったのであろうかとながめ、そこに恐ろしい鬼を見いだした。怪しみながらも鬼に近づいて「先ほどの詩はおまえの歌ったものか。もしそうなら、続きを聞かせてもらいたい。」と願った。◆鬼は答えた。「そうだ、それは私の詩だ。しかし、私はいま飢えているから、何か食べなくては歌うことができない。」行者はさらに願った。「どうかさう言わずに、続きを聞かせてもらいたい。あの詩には、まことに尊い意味があり、私の求めているものがある。しかし、あれだけではことは終わっていない。どうか詩の残りを教えていただきたい。」◆鬼はさらに言う。「いまわたしは空腹に耐えられない。もし人の温かい肉を食べ、血をすすることができるとしたら、あの詩の続きを説くであろう。」◆これを聞いた行者は、続きの詩を聞かせてもらえらば、聞き終わってから、自分の身を与えるで

あろうと約束した。鬼はそこで、残りを歌い、詩は完全なものとなった。それはこうである。「ものはみなうつり変わり、現われては滅びる。生滅にとらわれることなくなりて、静けさと安らぎは生まれる。」◆行者はこの詩を木や石に彫りつけ、やがて木の上ののぼり、身をおどらせて鬼の前に投げ与えた。その瞬間、鬼は神の姿にかえり、行者の身は神の手に安らかに受けとめられた。『大般涅槃経より』

◎いろは歌の原形となった物語

この物語もまた、ブツダの前世の話として伝えられている「ジャータカ」のひとつです。◆自分の身を捨てるという点では、先の「虎への捨身」と共通するものがありますが、これは同じ捨身でも、真実の教えを聞くためにいのちを捧げるといふ話ですから、少し趣が違います。◆このヒマラーヤにいた行者（雪山童子）が鬼から聞き出した詩には、仏の教えの根本ともいえる真理が示されています。◆それはこの世のあらゆる苦しみや悩みは「とらわれ」から起るのであり、すべては常にうつり変わるものであると知って「とらわれ」がなくなるとき、ほんとうの安らぎが生まれる、という意味です。◆日本人におなじみの「いろは歌」は、この物語を下敷きにしてつくられたものといわれています。日本語の五十音（四十八文字）を一回づつ



使つてつくられ、古くから手習いの教材として用いられてきた「いろは歌」を、漢字かな交じりの濁音入りで書いてみると次のようになります。◆  
色は匂へど 散りぬるを 我が世誰ぞ 常ならむ  
有為の奥山 今日越えて 浅き夢見じ 酔ひもせず

(いろはにはほへと ちりぬるを わかよたれそ  
つねならむ ういのおくやま けふこえて あさ  
きゆめみし ゑひもせす) ◆その意味は、「うる  
わしく匂う花々も、やがては散っていく。この世  
において、常に変わらないものがどこにあるうか  
形あるものにとらわれて迷っていた山道を、今日  
からは越えていこう。もはや浅はかな夢を見るま  
い、酒に酔ったような生活をするまい」という感  
じでしょうか。◆雪山童子が鬼から聞き出した詩  
そのままではありませんが同じような内容を歌つ  
たものと言えるでしょう。

◎この世に変わらないものはない

歌詞に出てくる「有為の奥山」の有為というのは、つくられたものという意味です。◆この世のあらゆるものごとは、さまざま原因と条件によって成り立っていて、ひとときもとどまることなく変化してゆくものです。◆それなのに、わたしたちはその真実を認めようとせず、自分だけはいつまでも変わらぬにいたいと願っています。若くて健康で長生きすることが幸いであり、老いて病んで死ぬことは災いだと思ひこんでいるのです。

◆そのように考えて生きていくかぎり、わたしたちの人生は次第に不幸になるよりほかありません。そして、不幸の頂点で人生を終えることになるのです。◆生まれたものは必ず死ななければならぬという教えは、とても悲観的なもののように思われるかもしれませんが、悲観も楽観もない、この世の真実なのです。◆その真実があるがままに受け入れたとき、恵まれた生に対しては驕ることなく謙虚に感謝し、迫りくる死に対しては恐れることなく、今ここに在る、この人生をせいっぱい生きようという静かな安らぎが開けてきます。◆その境地に至ることは容易ではありませんが、雪山童子はいのちがけでその道を求め、かたわらの木や石に彫りつけて記録し、わたしたちに伝えようとしていました。◆それが、今日伝えられている仏教の教えなのです。



三月の行事予定

震災追弔法要 三月十一日(木) 午後二時

勿忘の鐘突き 午後二時四十六分

※緊急事態宣言が緩和されましたら、左の行事を再開致します。

- ハザード会
- 文芸クラブ
- 写真クラブ
- 習字教室
- 環境保全会役員会

今月の掲示板

きよりたもつ  
だけど心は  
すぐとなり

三重県いなべ市の人権標語優秀作です。コロナ禍で人々の交流が少なくなりました。でも、こういう時だからこそ、心の交流を密にしたいものです。オンラインはグッドだと感じました。  
(老僧記)

訃報

堀田純子さん 三和町 享年九十二才

お知らせ

◆付録として、本山より発行されたパンフレットをつくります。コロナ禍の避難所を想定しています。

◆今号で十年間毎月寺報を出し続けることができなくなりました。ご愛読感謝いたします。

編集後記(野呂大悟)

◆今年も春が来ます。コロナであっても、どんな時代であっても春は来ます。桜が咲いて、様々な命の息吹を感じる季節の到来です。人生思い通りにいかなかったも、また花は咲く。それが生命ですね。

◆Kさんからの絵手紙です。

